もう二月も終わり。三学期はいつもより月日が過ぎるのが、早く感じられます。しかしながら今年はうるう年なので、二月が二十九日となります。「うるう」は「閏」と書きます。「もんがまえに王様の王」。中国でうるう年のうるうの日には、王様が門の中に閉じこもり、仕事をしなかったから「閏」の字ができたとか、昔は「もんがまえに玉」と書いていて、門の中に宝物があふれて、家が潤うというので、うるおう→うるう＝増える・余るということになり、うるうは、一日増えた二十九日を指すようになったのだとか。

二月の登校日が一日増えたので、ルンルンなのか、はたまたトホホ～なのか。子どもたちに聞いてみたいところです。

うるう年は四年に一回やって来るので、大人でもうるう年とオリンピックの年は重なると思っている人がいるようです。だいたい合ってはいますが、正解ではありません。

そもそも、「夏のオリンピック」なんて呼んでいますが、正式には「第〇回オリンピアード競技大会」と言うそうです。二〇二〇年（コロナ禍のために実際は二〇二一年）、日本で行われたオリンピアード競技大会は第三十二回でした。四年後（実際は三年後）の二〇二四年、つまり今年はフランスのパリで、そのまた四年後の二〇二八年にはロサンゼルス、二〇三二年にはブリスベンで行われることが決まっています。つまり、夏に行われる「オリンピアード競技大会」と、うるう年が重なっている訳で、二〇九六年までは四年に一回うるう年があるので、オリンピック（いや、オリンピヤード競技会）と重なりそうです。ところが、二一〇〇年はそうはいきません。（その頃私はこの世におりませんが…）。

実は、うるう年は、①「西暦が四で割り切れる（整数になる）年」②「西暦が百で割り切れて、四百で割り切れない年は、平年とする。」という決まりがあります。二一〇〇年は、四で割り切れますが、百で割り切れて、四百では割り切れません。だから、平年ということになります。二二〇〇年も二三〇〇年も平年ということになり、うるう年とオリンピックが重ならない年が存在するのです。

さて、一九五三（昭和二十八）年の今日、二月二十八日、衆議院予算委員会で当時の吉田茂首相が「バカヤロー」と発言したことがきっかけとなって、三月十四日に衆議院が解散されました。これが、かの有名な「バカヤロー解散」です。実際は大声で怒鳴ったのではなく、席に着くときに小さな声で「ばかやろう」とつぶやいたのを、偶然マイクが拾い、大変なことに発展したようです。

✝　✝　✝

実は、聖書のマタイによる福音書の第五章二十二節以降に、「しかし、わたしは言っておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。」と、あります。こりゃ大変！この場合の「兄弟」とは、隣人の事。「ばか」とか「愚か者」の原語は、翻訳に苦しむ言葉のようで、「ばか」は頭の空っぽさに重きが置かれ、「愚か者」の方は、心の邪悪さに重きを置いた罵り言葉のようです。

隣人に腹を立てると裁かれ、罵っただけで地獄行きなのかと、青くなりそうですが、隣人の命はもちろん、その人格や存在自体、神のかたちに似せて造られた価値ある尊い存在。だから、隣人を罵ることは神を罵っていることに等しい。ゆえに重罪に値するということのようです。キリスト教のカレンダーでは、今年の復活日（イースター）は三月三十一日。その前日までの四十六日間から日曜日を除いた四十日間を「大斎節＝たいさいせつ」と呼び、イエス様が荒野で断食、修行した四十日間にちなみ克己、節制する期間としています。本日はまさに大斎節の真っただなか。

直ぐに腹を立てたり、人を罵ったりしてはいないか。話しかける相手に敬意はあるか。同じ意味のことを話すにしても、吟味して表現を工夫することで、相手を生かす言葉に変わるはず…。心して過ごしたいものです。

✝　✝　✝（立教小学校校長　田代　正行）